



かえで通信

かえで通信100号に寄せて

糖尿病内科 竹内



かえで通信がいよいよ100号を迎えることになりました。私自身の原稿も、今回で29回目です。これまでの題名を振り返りますと、当初は外来の診療時間内に伝えきれないような、ちょっとした豆知識を中心にしておりました。しかし、時代の変化とともに検査機器が発達し、多種多様な治療薬やインスリン製剤が使われるようになりますと、糖尿病診療自体がさまざまな職種の医療者が関わって、いわゆるチーム医療として行うものになってまいりました。このような背景から、かえで通信も、各スタッフの持ち回りで執筆するスタイルが定着しております。チーム全員で原稿内容を確認しあってから発行しますので、なかなか気が抜けませんが、執筆者自身にとっては、知識の再確認として役に立っています。「かえで」の由来は、博愛病院の創立記念日が10月3日であることにちなんで、10月の誕生花から命名しました。糖尿病治療では、それまでの生活習慣を変えてゆくことが重要になります。秋に美しい紅葉に変化する「かえで」のような華麗な変身とまでは行かないかもしれませんが、少しでも目標の姿に近づけるよう、皆様とともに歩んでまいりたいと思います。

薬剤部 大谷

かえで通信100号おめでとうございます！こんなタイミングに在職出来て光栄です!!皆さんとはお薬の事でお話させていただきます。拙い所もあるかと思いますが、色々お話頂けると幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

糖尿病内科 藤岡

かえで通信100号の発刊おめでとうございます！
これからの糖尿病を含めた生活習慣病に関わる豆知識を提供していければと思います。目指せ200号！

検査部 大太・先灘

かえで通信100号！よく続けました。その時の新しい情報や知って欲しいこと色々掲載されてきました。これからも皆様の糖尿病療養のお役に立つ情報や、読んで楽しい記事を発信していきたいと思っています。

管理栄養士 本多

読者の皆さんに「なるほど」「いいね」「やってみよう」と言ってもらえる内容を届けたい!という思いになるのは、頑張っ治療を続けておられる方がいらっしゃるからです。つながる気持ちが100号の結果です。感謝、感謝です。

リハビリ 足川

かえで通信も100号となりました。私は前任の理学療法士が退職するにあたって、糖尿病チームへの参加を拝命しました。約10年チームへ参加させて頂いておりましたが、その間にも運動療法の進め方がどんどん変わっていております。今後も新しい情報が出てきましたら「かえで通信」に記載させて頂きたいと思っています。

看護師（眼科） 柿元

眼の合併症は、自覚症状もなく進行することが多いため、重症になってから気づくことも少なくありません。進行すると失明することもあります。眼科受診をお忘れなく。

栄養管理室 前田、山下

かえで通信100号おめでとうございます。これからも微力ながら糖尿病チームの一員としてお役に立てるように努めていきます。

看護師（内科） 西村

100号おめでとうございます。今後も他職種の方と連携し、安心していただけるような看護を提供していきたいと思っています。